

特定外来生物

緊急対策外来種

重点対策外来種

# アカミミガメ

学名 *Trachemys scripta*

俗称 ミドリガメ



岩の上で日光浴をするアカミミガメ

## 影響

野生下では水生植物を最も多く食べ、アメリカザリガニや水面に落ちてきた昆虫等も食べます。餌資源量の多いものを食べているので在来のカメと餌を取り合うことはなく、交雑したりすることはありません。あまりにも密度の高い池では、水質が悪化したり、日光浴場所を占拠したりするなど影響が出る場合もあります。まれに水鳥の雛を襲うこともあります。

公園の池の生物の中では、コイと並んで目立つ生物のため、人々への印象としての影響が最も大きいと言えます。

## 三浦半島での分布傾向

平作川や川間川など、護岸された川でも生息できるほか、轡堰や光の丘水辺公園では繁殖も確認されています。また、三笠公園のようなごく小さな池でも放逐された個体が見つかっており、安価に販売され続ける以上は人の生活圏内にあるあらゆる水辺で侵入のリスクがあると言えます。

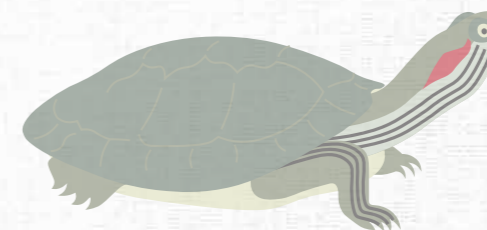


アメリカ大陸原産のヌマガメ科の一種です。養殖の容易さと見た目の美しさから亜種ミシシッピアカミミガメがもっとも流通量が多く扱われています。他に、亜種キバラガメ、亜種カンバーランドキミミガメ等が含まれます。

幼体の頃は「ミドリガメ」としてペットショップや屋台などで安価で販売され、飼育も容易ですが、5年程度経つとこれまでの飼育ケースでは手狭になるほどに成長し、この頃に野外の池や川に捨てられることがあります。

サルモネラ菌を保菌しているという報道を知って飼育を中止する人もいますが、アカミミガメに限らずどんな動物の体内や飼育ケースにもいる可能性のある一般的な細菌です。

三浦半島で現在生息しているカメの中で最も多いのがこのアカミミガメです。都市河川では捨てられた個体そのまま成長して観察されますが、溜池や公園の池では繁殖もしています。水面近くを泳いだり、岩の上で日光浴をするので、人目にもつきやすい種類です。



# 駆除の方法

初夏または秋にカニカゴを水際に設置し、魚のあらなどをエサに誘引捕獲します。その際、カメが溺死しないようにカニカゴの一部は水面より上になるようにします。罟は毎日見回り、エサも毎日交換します。外来生物の中では比較的防除しやすいといえます。在来種はニホンイシガメとスッポンだけで、それ以外のカメは全て外来生物です。



## いろいろなアカミミガメ

外来種



ミシシippアカミミガメのオス

性成熟すると前肢の爪が伸び、頭部の赤い模様が消え、甲羅も褐色になる



ミシシippアカミミガメの幼体

ミドリガメの愛称で親しまれ、現在最も安価に流通しているカメ



アカミミガメの亜種 キバラガメ

腹甲に模様が無く、顔の横の赤い模様もない



アカミミガメの色彩変異

アルビノの他、パステルと呼ばれる様々なバリエーションが作られている

## 三浦半島で確認されている アメリカから来たカメ

外来種

アカミミガメと同じように、ある程度の大きさの池であれば野外繁殖します。侵入初期に防除することが大切です。



カミツキガメ



ミシシippニオイガメ



ワニガメ



リバークーター

**注意**

**ケガに注意！かみつきます。**

野外で捕まえたアカミミガメは気性が荒く、噛みつくことがあります。力が強いので、指先が無くなる程の大けがを負う場合があります。注意が必要です。

首を伸ばしても手まで届かない甲羅の後ろのほうをつかむなど、工夫をしましょう。

なお、クサガメやニホンイシガメは滅多に噛みつきません。

